

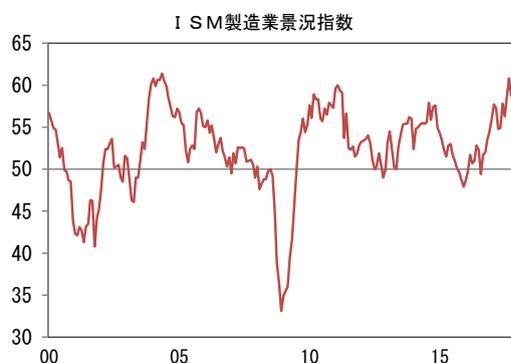
## 12月の利上げ再開が固まる ～そして次期FRB議長はパウエル氏の公算～

2017年11月2日（木）

第一生命経済研究所 経済調査部  
主任エコノミスト 藤代 宏一  
TEL 03-5221-4523

### 【海外経済指標他】

- ・11月FOMCでは金融政策の現状維持が決定された（詳細は後述）。
- ・10月ISM製造業景況指数は58.7と9月から2.1pt低下して市場予想（59.5）を下回った。もっとも今回の結果は、PMIや地区連銀サーベイとの比較で出来過ぎの印象が強かった9月からの低下であり、実際の生産活動の鈍化を示唆しているかは微妙。これら一連の指標を見る限り製造業セクターの業況は高水準横ばいと言ったところだろう。
- ・10月ADP雇用統計によると民間雇用者数は前月比+23.5万人と、ハリケーン被害からの復旧が確認された。BLS雇用統計との比較では、9月の落ち込みがマイルドだったことから反発も緩やかだか、均してみれば15万人ペースの増加が維持されており、労働市場の量的拡大が示されている。
- ・10月米自動車販売台数は1809万台と9月に続いて直近のトレンドを大幅に上回った。ハリケーン被害による買い替えと、同時期に控えられた購入が10月分にずれ込んだ模様。そうしたなか株価上昇の恩恵もあって各社とも大型車の販売が好調でライトトラックは1110万台と過去最高に比肩。



(備考) Thomson Reutersにより作成



(備考) Thomson Reutersにより作成。太線：3ヶ月平均

### 【海外株式市場・外国為替相場・債券市場他】

- ・前日の米国株は続伸。米指標は強弱まちまちも、この日発表された企業決算が好調で買い優勢。WTI原油は54.30ドル（▲0.08ドル）で引け。
- ・前日のG10通貨はJPYとEURが弱くUSDが強めの推移となった。USD/JPYは米長期金利が低下するのをよそに114前半まで水準を切り上げ、EUR/USDは1.16前半へと水準を切り下げた。その他では原油価格の安定もあって資源国通貨が堅調。
- ・前日の米10年金利は2.372%（▲0.7bp）で引け。欧州時間まで小幅に金利上昇となった後、ISM製造業指数の予想比下振れに反応して金利低下。その後FOMCを通過すると低下幅縮小で引け。次期FRB議長にパウエル氏を指名との観測報道に対して反応は限定的。欧州債市場（10年）はドイツ（0.373%、+1.0bp）、フランスが小幅に金利上昇となったほか、イタリアが金利低下、スペインが金利上昇。対独スプ

レッドはまちまち。

### 【国内株式市場・アジアオセアニア経済指標・注目点】

- ・日本株はUSD/JPY上昇を好感して高寄り（9：15）。
- ・2日（米国時間午後）にWSJとブルームバーグが報じたところによると、ホワイトハウスがパウエル氏を次期FRB議長に指名することが、事情に詳しい関係者3人の発言として伝えられている。報道が正しいければ、本日中にも正式な発表がある模様。
- ・11月FOMCでは大方の予想どおり金融政策の現状維持が決定された。FFレート上限は1.25%で据え置かれ、声明文の変更もごく僅かであった。景気判断は「労働市場は引き続き力強さを増し、経済活動はハリケーンに伴う混乱にもかかわらず着実なペースで拡大したことが示唆された」として、9月までの“緩やか（moderately）”から“着実（solid）”に一步前進。他方、インフレ率については「前年比ベースでのインフレ率は短期的に2%をやや下回る水準にとどまると予想されるが、中期的には委員会の目標である2%程度で安定すると見込んでいる」として従来からの見解を維持。低インフレはFEDにとって謎であり懸念事項でもある訳だが、一方で中期的な見通しを根本から覆すほど物価の波及メカニズムが崩れているわけではない。
- ・FEDは足もとの低インフレを大きく取り扱うことに距離を置き、景気判断を強気に傾斜させた。このことは12月FOMCの利上げ再開を強く示唆していると言えるだろう。仮に現時点でFEDが利上げを躊躇しているならば、景気認識を大きく弱気に傾けた筈だ。なお、12月FOMCで発表されるドットチャートでは、2018年に3回（少なくとも2回以上）の利上げ計画が示されるだろう。